

■仕様

型 名	フードセーバー® VS3193 (2159702)		
電 源	100V 50-60Hz	生産国	中国
消費電力	130W	重 量	約 2.70kg
外形寸法	幅 412.0mm × 奥行き 214.0mm × 高さ 150.0mm		

保証書

この度は当社製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。

この保証書は、保証期間中に故障が発生した場合には、下記の無料修理規定にしたがって無料修理を行うことをお約束するものです。

この製品が、万一保証期間内に故障した場合は、フードセーバーカスタマーサービスセンターにご連絡願います。

保証期間内に限り無料にて修理させていただきます。(ご返送の際に発生する送料はお客様のご負担となります。)

※修理を希望される場合、本書とお買い上げ証明(お買い上げ明細書、レシート、領収書など)の提示が必要となりますので、保証書とお買い上げ証明を大切に保管してください。

【品名：フードセーバー® VS3193 (2159702)】

お客様ご氏名：様 ご購入日：年 月 日

お客様ご住所：〒 保証期間：ご購入日より1年間

お客様電話番号(購入時)

この保証書は、本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。したがって、この保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。保証期間経過後の修理などについてご不明な点がございましたら、下記の当社フードセーバーカスタマーサービスセンターにお問い合わせください。

無料修理規定

- 取扱説明書・本体貼付ラベル等の注意書きにしたがった使用状態で故障した場合は、保証期間内に限り無料修理いたします。
- 保証期間内でも次の場合には有料修理となります。
 - 本書の提示がない場合
 - お買い上げ明細書がない場合および本書の字句を書き替えられた場合。
 - 使用上の誤り、または不当な修理・改造による故障および損傷。
 - お引き渡し後の輸送・落下・水漏れ等による故障および損傷。
 - 火災・公害・異常電圧および地震・落雷・風水害・その他の天変地異による故障および損傷。
 - 過酷な条件のもとで使用されて生じた故障および損傷。
 - 故障の原因が本機以外にある場合。
- 付属品等の消耗品の交換。
 - 車両船舶などに搭載されて生じた故障および損傷。
 - 一般家庭用以外の用途(業務)
 - 取扱説明書に記載された「安全のご注意」を守れていない場合の故障。
- 直接修理窓口へ送付した場合の送料等や出張修理を行った場合の出張料等は、お客様の負担となります。
- 消耗品は保証対象外となります。
- 本製品の故障に起因する付随的損害については責任を負いかねます。
- 保証に関して不明の点がございましたら、当社カスタマーサービスセンターにお問い合わせください。
- 本書は日本国内においてのみ有効です。
- 本書は再発行しませんので大切に保管してください。

お問い合わせ先

フードセーバー カスタマーサービスセンター

 **0120-36-2040**

受付時間 平日 10:00 ~ 18:00(土日、祝日、年末年始を除く)

輸入元：コールマンジャパン株式会社

〒108-0023 東京都港区芝浦 4-9-25 芝浦スクエアビル



フードセーバー® VS3193 取扱説明書



このたびは「フードセーバー® VS3193 (2159702)」をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

●ご使用の前に、この取扱説明書をお読みのうえ、正しくお使いください。

●お客様の安全のため、必ず「安全上のご注意」をお読みください。

●取扱説明書および保証書は大切に保管し、必要な時にご使用ください。

安全上のご注意	2
使用上のご注意	4
各部の名称とはたらき	5
使い方	7
バックロールからバッグを作る	7
バッグを使用する	9
アクセサリを使用する	10
お手入れ方法	12
保管方法	13
上手に真空保存するために	14
食材の下ごしらえ・準備・加熱のヒント	15
こんなときには	19

フードセーバー® をご使用になる前に、必ずこの取扱説明書をお読みになり、注意事項・使用方法にしたがって安全に正しくご使用ください。
ケガや事故の原因になりますので、この取扱説明書に記載のない目的や方法では絶対に使用しないでください。

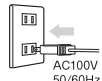
■絵表示について

表示内容を守らず、誤った使用方法により生じる危害や損害の程度を、下のような表示で区分して説明しています。

本文の内容を良く理解してから、ご使用ください。

⊘ ⊘ ⊘ ⊘ ⊘ ⊘ マーク は、してはいけない「禁止」の内容です。

⚠ ⊘ マーク は、必ず実行していただく「強制」の内容です。

警告 「人が死亡又は重傷を負う可能性が想定される」内容	
	濡れた手で電源プラグを抜き差ししない 濡れた手で電源プラグをコンセントに抜き差ししたり、電源が入った状態の本体を触ったりしないでください。感電の恐れがあります。 
	交流100V以外の電圧で使用しない - 本製品は交流100V以外の電源コンセントには使用しないでください。 - 延長コードは使用しないでください。タコ足配線はしないでください。火災・感電の原因となります。 
	異常な状態では使用しない - お子様やペットのそばでは使用しないでください。 - 本製品または他の部品を落としたり破損した場合には、使用しないでください。 - 煙がでたり異臭がするなど、異常な状態での使用は、火災・感電の原因になります。
	感電注意 - 水をかけたり、濡らしたりしない - 火災、感電、ケガを防ぐため、フードセーバー本体、電源プラグ、電源コードを水等の液体に浸けないでください。 
	自分で分解・修理しない - 絶対に自分で、分解、改造、修理をしないでください。破損、故障、ケガ、事故の原因になります。 - 本製品、電源コード、プラグが破損しているとき、正しく作動しないときは、巻末のカスタマーサービスセンターまでご連絡ください。 
	記載のない目的や方法で使用しない この取扱説明書に記載のない目的や方法では絶対に使用しないでください。ケガや事故の原因になります。
	バックロールやバッグに熱いものを入れない 充分冷ましてから入れてください。やけどの原因になります。

警告 「人が損害を負う可能性および物的損害が想定される」内容	
	電源プラグを抜くときはコードを引っ張らない ・電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って抜いてください。 ・お手入れは、必ず電源プラグをコンセントから抜いて冷ましてから行ってください。
	放置しない ・電源コードをコンセントに差し込んだまま、フードセーバーのそばを離れないでください。
	ほこりやゴミを取る ・電源プラグに付いたほこりやゴミは取り除いてください。
	本体を逆さ、横倒しで使用しない ・使用時は本体を逆さにしたり、横倒しにしないでください。 ・使用中に移動させないでください。感電、ケガの原因になります。
	水気、火気の近くに置かない ・台所の流し台などの水気のある場所や、油煙や湯気があたる場所、湿気やほこりの多い所では使用しないでください。 ・本体、付属品を火気の近くに置かないでください。火災の原因になります。
	炊飯器使用の注意 ・圧力式の炊飯器では真空調理を行わないでください。 ・炊飯器内部が100℃以上になるため、バッグが破裂したり、炊飯器が故障する恐れがあります。 ・炊飯器を使用する場合は、炊飯器の取扱説明書も併せてお読みください。 ・炊飯器を使用する真空調理は、お客様ご自身の責任で行ってください。事故・破損について、当社は一切の責任を負いかねます。
	ゴムやスポンジ部分を研磨剤で拭かない ・ゴムやスポンジ部分を研磨剤などで拭かないでください。事故の原因になります。
	・保存物をオープンや直火で戻さないでください。
	電源コードの取扱い注意 ・電源コードは、使用時に束ねないでください。 ・電源コードをテーブルやカウンターの端などに引っかけたり、ドアにはさんだり、ねじったり、もつれさせたりしないでください。破損や故障、ケガの原因になります。 ・電源コードをコンロや暖房器具など高温になるものに近づけないでください。 ・電源コードの破損ややけどの原因になります。 ・電源コードを鋭利なものに触れさせないでください。

※この製品は有極プラグが設置されています（片側の幅が若干広いです）。安全対策として、有極プラグは一方の方向のみにコンセントに挿すようになっています。
万が一コンセントに挿せない場合、反転させて再度、お試しください。

■使用上のご注意

1. 商品を使用する前に、取扱説明書をしっかりとお読みください。
2. 火傷などのケガを防ぐ為に、使用中は密封用ヒーターを触らないでください。
3. 感電から身を守る為に、いかなる事があっても、電源コードやプラグもしくはフードセーバー本体を水やその他液体に置いたり、浸したりしないでください。
4. お子様や障害のある方の本製品のご使用はお控えください。
5. 本製品をお子様の付近でご使用される場合は、必ず大人の監視・監督の元、ご使用してください。本製品はおもちゃではありません。おもちゃとして遊ばないでください。
6. 使用後お掃除をする際は、電源コードをコンセントから抜いてください。本体が冷めていることを確認してから、お掃除や付属品の取り外しを行なってください。コンセントから電源プラグを抜く際、コードを引っ張らないでください。電源プラグを持って、コンセントから抜いてください。
7. 電源コードが破損している場合、本体の異常、破損、または故障していると思われる場合、本製品のご使用をおやめください。詳しくは下記に記載されているカスタマーサービスセンターへご連絡頂き、修理・点検等をご相談ください。
8. メーカー推奨のアクセサリ以外の付属品などを本製品と合わせて使用した場合、火事、感電、人体へケガなどを引き起こす恐れがありますのでご使用にならないでください。
9. 濡れている場所や野外でのご使用は絶対にしないでください。本製品は一般家庭で個人が使用する為に製造された製品です。業務用としての使用は絶対にしないでください。
10. 電源コードをテーブルやカウンターの端から垂れた状態又はコンロや暖房器具など熱くなる表面に触れないようにしてください。
11. 特にお子様が悪くつまずく、引っかかる、引っばる、絡まる又は製品が横転する等の事故が生じないように、電源コードを注意して設置してください。
12. 濡れている又は水気の多い場所、熱いオープンやコンロなど火気又は熱源付近に本製品を置かないでください。必ず平らで安定した場所に設置してください。
13. 熱い液体を含む容器やバッグの移動、密封する際の取り扱いには十分注意して行なってください。
14. 電源コードは必ず本体へ先に接続してから、電源プラグをコンセントへ差し込んでください。（取り外し可能な電源コードがついている製品について）
15. 本製品の使用目的以外の方法でのご使用はおやめください。
16. 真空保存は熱処理される缶詰の代わりとなる保存方法ではありません。真空パックする事で鮮度を保ちますが、殺菌作用はありません。生鮮食品は、冷蔵庫・冷凍庫にて保存してください。

本製品は一般家庭用です。
業務用としての使用は絶対にしないでください。
この取扱説明書は大切に保管してください。

■電源コードの取り扱いについて

特にお子様がつまずく、引っかかる、誤って引っ張ってしまうような事故を未然に防ぐため、長い電源コードはテーブル又はカウンターの上から垂らした状態で設置しないでください。

各部の名称とはたらき



各部の名称とはたらき

コントロールパネル

A. 吸引ボタン『』

食材の吸引から密封までを自動で行います。

B. 密封ボタン『』

このボタンは3つの用途があります：

- ①バックロールからバッグを作る際に密封します。
- ②吸引を直ちに止め、密封を開始します。パンやクッキーなど軟らかい食材の潰れを防ぎます。
- ③一度開けたスナック菓子などの袋を密封し、湿気から守ります。

C. モードボタン『』

モードを切り替える際に使用します。選択したモードのランプが点灯します。

- ①ドライモード『』
通常使用するモードです。水分が少ない食材に使用します。
- ②モイストモード『』
水分の多い食材に使用します。食材に合わせた最適な真空パックが可能です。
- ③パルスモード『』
手動で吸引をコントロールします。柔らかい食材や崩れやすい食材にぴったりです。ボタンを押している間だけ、吸引します。吸引が終わったら『密封』ボタンで密封します。
- ④真空調理モード『』
通常よりゆっくり吸引し、吸引時間も短く、真空調理に最も適した加減で吸引・密封します。

格納式ハンディーシーラー

D. ハンディーシーラーボタン『』

本体に内蔵されているハンディーシーラーをフードセーバーのアクセサリーと一緒に使用する際に押します。

E. モードボタン『』

モードを切り替える際に使用します。選択したモードのランプが点灯します。

- ①吸引ボタン『』
ハンディーシーラーと、ジッパーバッグ、真空フレッシュボックス、ボトルストッパーなどのアクセサリーと一緒に使用します。
- ②マリネボタン『』
ハンディーシーラーと、真空コンテナと一緒に使用します。約12分作動し、吸引と解除のサイクルを3回繰り返します。短時間で風味豊かなマリネが完成します。真空フレッシュボックスでは使用できません。

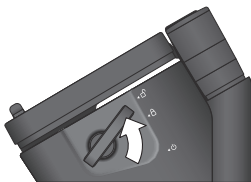
ロックレバー

- ⬇️：ロックレバーを下に回してください。電源が入り、吸引・密封する準備が整います。
- ⬅️：ロックレバーを中央に合わせて保管してください。
- ⬆️：ロックレバーを上に戻してください。

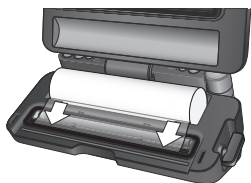
使い方

1. パックロールからバッグを作る（袋状にする）

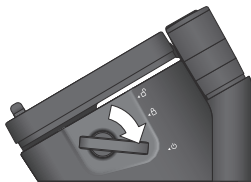
- ① ロックレバーを『』に合わせて、フタを開けます。



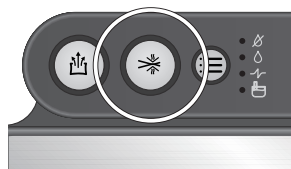
- ② パックロールをパックロール収納スペースにセットします。密封用ヒーターの端まで届くようパックロールを引っ張り、フタを閉めて密封作業の準備をします。



- ③ ロックレバーを『』へ回します。



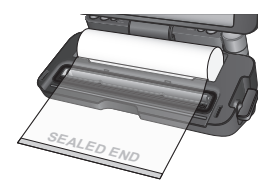
- ④ 密封ボタン『』を押します。
パックロールの片側（開いている方）を閉じます。
密封ランプ『』が消灯したら、密封完了です。



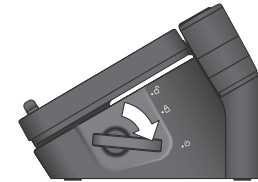
注意：本機使用中は絶対に 密封用ヒーターに触れないでください。火傷の原因になります。

使い方

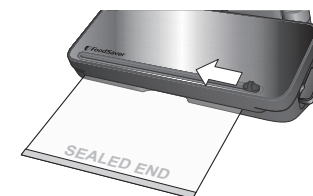
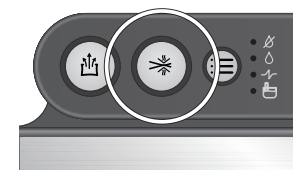
- ⑤ ロックレバーを『』に合わせて、フタを開けます。
パックロールをお好みの長さに引っ張り、フタを閉めます。



- ⑥ ロックレバーを『』に合わせてます。



- ⑦ 密封ボタン『』を押します。この密封された部分は、次に作るバッグの底面となります。
そのままの状態でロールカッターを滑らせ、パックロールをカットします。



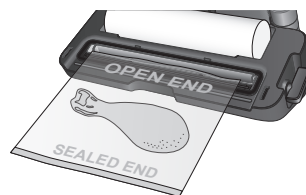
使い方

2. バッグを使用する

- ① ロックレバーを『』に合わせ、フタを開けます。



- ② 片方を密封したパックロールに食材を入れ、フタを閉めます。



- ③ ロックレバーを『』に合わせます。

- ④ 吸引ボタン『』を押し、吸引密封を開始します。完全に吸引されるまでモーターは作動し、完了後、自動的に密封します。

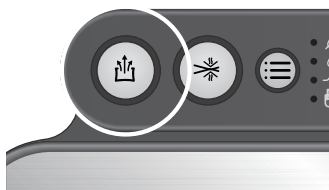


- ⑤ 密封ランプが消灯したら、ロックレバーを『』に合わせ、フタを開けてバッグを取り出します。必要に応じて冷蔵庫・冷凍庫にて保管してください。(安全な食品の保存に関しては『上手な保存方法のヒント』を参照してください。)

注意：本機使用中は絶対に密封用ヒーターに触れないでください。火傷の原因になります。

●続けて吸引・密封を行う場合、20秒間隔をおいてから次の吸引・密封作業を行ってください。本体を保管する際、必ずロックレバーを中央の『』に合わせてください。

●バッグの無駄を最小限にするためにも、バッグをドリフトレーに入れ過ぎないでください。ドリフトレーの端にバッグがかかるように設置してください。



使い方

3. アクセサリーを使用する

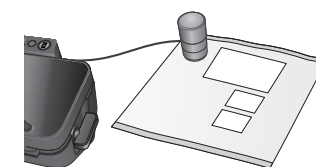
格納式ハンディーシーラーと一緒に使用すれば、様々なアクセサリーを使用することができます。

フードセーバー®ジッパーバッグ&真空フレッシュボックス & 真空コンテナ

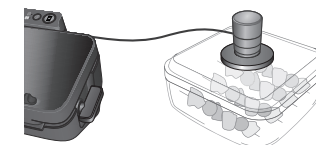
- ① ロックレバーを『』に合わせ、格納式ハンディーシーラーを本体から取り出します。



- ② 格納式ハンディーシーラーをジッパーバッグ、または真空フレッシュボックス&真空コンテナのバルブに設置します。

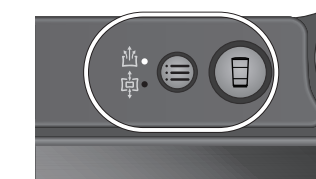


- ③ モードボタン『』を押して、吸引『』にセットして下さい(ランプが点灯します)。ハンディーシーラーボタン『』を押して、吸引を開始します。



フードセーバー® ボトルストッパー：

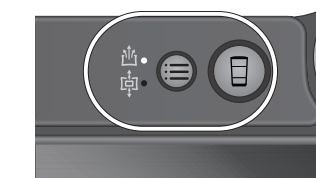
- ① ロックレバーを『』に合わせ、格納式ハンディーシーラー本体から取り出します。



- ② 格納式ハンディーシーラーの透明部分を取り外し、ホースのついている上部をボトルストッパーに差し込みます。



- ③ モードボタン『』ボタンを押して、吸引『』にセットして下さい(ランプが点灯します)。ハンディーシーラーボタン『』を押して、吸引を開始します。



真空コンテナ：

- ① ロックレバーを『』に合わせ、格納式ハンディーシーラーを本体から取り出します。
- ② ハンディーシーラーの透明部分を取手から外し、ホースのついている上部を真空コンテナに接続します。
- ③ モードボタン『』を押して、マリネボタン『』にセットします（ランプが点灯します）。ハンディーシーラーボタン『』を押して、マリネを開始します。

詳しくは真空コンテナに同梱されている取扱説明書をご確認ください。

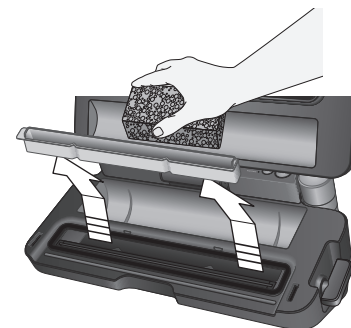
本体のお手入れ：

注意：電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。絶対に水や液体などに浸けないでください。

ゴムパッキンとドリップトレイ付近に食材が付着していないか確認してください。ゴムパッキンは水を含ませた固く絞った柔らかい布で拭いてください。上下のパッキンは取り外し可能です。薄めた台所用中性洗剤で洗うことができます。完全に乾かしてから、パッキンを元に戻してください。

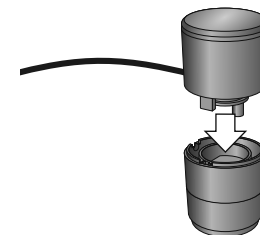
ドリップトレイは取り外し可能です。誤って少量の液体などが吸引時に吸い上がってしまっても、お掃除が簡単です。

使用後は必ずドリップトレイを空にしてください。ドリップトレイは取り外して、薄めた台所用中性洗剤で洗ってください。ドリップトレイに食材などが残っていないか確認し、必要に応じてお掃除をしてください。完全に乾かしてから、ドリップトレイを元に戻してください。



格納式ハンディーシーラーの透明容器のお手入れ：

使用後は必ず格納式ハンディーシーラーの透明部分を空にしてください。格納式ハンディーシーラーから透明部分を取り外す場合、ホースの付いている黒い上部分をしっかりと持ちながら、透明部分を下に引っ張り、外してください。透明部分は薄めた台所用中性洗剤で洗い、完全に乾かしてから、元に戻してください。



重要：液体が入った場合は必ずお掃除を行なってください。

保管方法

保管方法：

本体をお手入れ方法にしたがってお手入れしてください。

本体のお手入れが済み、完全に乾いたら、フタを閉め、ロックレバーを『』に合わせます。この位置で保管することで、フタを閉じても内側のパッキンが押しつぶされるのを防ぎます。

本製品を使用していない時は必ずロックレバーを中央の『』に合わせてください。絶対に『』の位置で保管しないでください。ロックレバーを『』の位置で保管すると、内側のパッキンが押しつぶされ、吸引操作に不具合が生じます。



ロックレバーを中央の
『』位置に回す

上手に真空保存するために

真空保存することで、食材の栄養価や風味、品質を損なう酸化を防止できます。また、微生物の発生を防ぎ、下記のような問題を防ぐことができます。

カビ - けばだっているの、すぐ目につきます。カビは酸素が少ない環境では発生しにくいので、真空保存する事で発生を遅らせることができます。

イースト - 発酵することで発生する酵母は匂いと味で確認できます。酵母は水分、糖分そして適度な温度が存在する環境で増殖します。空気の有無に関係無く発生します。冷蔵する事で酵母の増殖を遅らせることができますが、冷凍することで、完全に止めることができます。

細菌 - 不快な匂い、変色、食材が柔らかくなる又はヌルヌルした感触が主な症状です。ボツリヌス菌などの嫌気性菌が発生します。稀に発生した場合、大変危険な状態になる場合があります。

安全に食材を保存するためには低温を維持する事が重要です。4℃以下の環境であれば、微生物の発生を大幅に抑えることが可能です。0℃で冷凍保存することで、微生物は死滅しませんが、増殖をおさえることができます。腐敗しやすい食材の長期保存には、真空状態で冷凍保存し、解凍後は冷蔵庫で保管してください。

真空保存は熱処理される缶詰の代わりとなる保存方法ではありません。真空保存することで鮮度を保ちますが、殺菌作用はありません。

重要：真空保存は冷蔵・冷凍保存の代わりとなりません。生鮮商品は、冷蔵庫や冷凍庫で保存してください。



>真空パックされた食材の解凍・温め

食材の解凍は必ず冷蔵庫、電子レンジ、もしくは湯せんで行ってください。生鮮食品の常温での解凍はおやめください。電子レンジで温める場合、必ずバッグに切れ目を入れて、耐熱皿の上に置き、加熱してください。油分の多い肉料理などは、パックしたまま電子レンジで加熱するとムラができるので、必ずバッグから取り出して温めてください。湯せんで温める場合は、接着部分が開く恐れがありますので沸騰寸前の熱湯で温めてください。



>肉や魚の下ごしらえ

肉や魚は、1～2時間程度冷凍庫に入れ半冷凍状態にしてから、バッグに入れて吸引・密封してください。この処理をする事で食材本来の水分や形を保ちながら、しっかりと密封することができます。半冷凍が難しい場合は、ペーパータオルを肉や魚とバッグの間に敷いて吸引・密封してください。ペーパータオルが余分な水分を吸収します。

メモ:酸素を取り除くため、牛肉は真空パック後、色が濃く見えることがあります。腐食しているわけではありませんのでご安心ください。



>ハードチーズ

チーズの鮮度を保つためには、開封後は毎回吸引・密封し真空保存してください。チーズを取り出す際は、密封された端をハサミで切り取り取り出してください。ご使用後はバッグに戻し、吸引・密封して保存してください。

注意:嫌気性菌が発生する恐れがあるため、ソフトチーズは真空保存しないでください。



>野菜の下ごしらえ

真空保存する前に、野菜は下茹でしてください。この処理をする事で風味、色、食感を低下させる酵素の発生を抑えます。野菜の下処理は、沸騰したお湯もしくは電子レンジで行ってください。電子レンジを使用する場合、野菜は固めに仕上がるようにしてください。湯で時間は、葉物やグリーンピースの場合、1～2分、サヤエンドウ、スライスしたズッキーニやブロッコリーは、3～4分、にんじんは5分ほど、トウモロコシは7～11分が目安です。湯でた野菜は冷水に浸し、火が通り過ぎるのを防ぎます。仕上げにふきん又はペーパータオルなどで水分を拭き取り、バッグに入れて吸引・密封します。

メモ:全ての野菜（ブロッコリー、芽キャ

ベツ、キャベツ、カリフラワー、ケール、カブ）は保存時にガスを発生させます。湯でた後は、必ず冷凍庫で保存してください。

野菜を冷凍する場合、1～2時間程度冷凍庫に入れ半冷凍状態にするか、完全に凍らせてください。小分けして野菜を凍らせたい場合、クッキングシートなどに間隔を空けて並べます。凍ったらクッキングシートから外して、バッグに入れ吸引・密閉し、冷凍庫で保管してください。

注意:嫌気性菌が発生する恐れがあるため、フレッシュマッシュルーム、玉ねぎ、にんじは絶対に真空保存しないでください。



>葉物野菜の下ごしらえ

葉物野菜の保存には真空フレッシュボックスが便利です。野菜を水洗いし、水気をしっかり切った後、真空フレッシュボックスに入れ、吸引・密閉します。冷蔵庫に入れて保管してください。



>果物の下ごしらえ

柔らかいフルーツやベリーなどを冷凍する場合、1～2時間程度冷凍庫に入れ半冷凍状態にするか、完全に凍らせてくださ

い。小分けして果物を凍らせたい場合、クッキングシートなどに間隔を空け並べます。凍ったらクッキングシートから外して、バッグに入れ吸引・密閉し、冷凍庫で保管してください。冷蔵庫で保存する場合は真空フレッシュボックスのご利用をおすすめします。



>焼き菓子など

柔らかくてつぶれやすい焼き菓子などは、真空フレッシュボックスのご使用をおすすめします。バッグを使用する場合は、1～2時間程度冷凍庫に入れ半冷凍状態にするか、完全に凍らせてから吸引・密封してください。すぐに使用しないクッキー生地やパイ生地、パイやケーキミックスなどを真空パックしておけば、いつでも簡単に調理ができます。



>コーヒーや粉物など

粉物などの細かい粒子が吸引時に真空ポンプに吸い込まれないようにするため、コーヒーの紙フィルターもしくはペーパータオルをバッグや真空フレッシュボックスの上に置いて、吸引してください。また、食材を元の袋のまま真空パックすることも可能です。



＞スープなどの液体

スープストックなどの液体を真空パックする際は、鍋やパウンドケーキ型、製氷皿などで1～2時間程度冷凍庫に入れ半冷凍状態にするか、完全に凍らせてください。凍った液体を バッグに入れ、吸引・密閉してください。使用する際は、電子レンジ又は湯せん(75℃以下)で解凍します。電子レンジで解凍する場合、バッグに切れ目を入れて耐熱皿にのせてください。

瓶に入っている飲料には、ボトルストッパーをご使用ください。ボトルストッパーの下側と飲料の間は、3cm以上間隔をあけてください。炭酸飲料にはご使用いたできません。ボトルストッパーは繰り返しご使用いただけます。



＞作り置き、残り物、サンドウィッチなど

真空フレッシュボックスなどを利用し、効率良く作り置きの食事や残った食事、サンドウィッチ等を保存しましょう。真空フレッシュボックスは電子レンジでご使用いただけます。食器洗い洗浄機にも対応しています。真空フレッシュボックスは軽量なので、オフィスや学校、アウトドアなどにもぴったりです！



＞スナック菓子

真空保存することでスナック菓子の鮮度がより長く保てます。クラッカーなどの割れやすいお菓子には真空フレッシュボックスをご使用ください。



＞食品以外の物を真空パックする

FoodSaver® はバッグやアクセサリーなどの食品以外のものも酸化や劣化、水分から守ります。

とがった部分がある物（ナイフ、フォーク等）を真空パックする際は、バッグに穴が開くのを防ぐため、ペーパータオルなどで保護してからパックしてください。変色を防ぎ、輝くきれいな状態で保存できます。



- キャンプやハイキングなどのアウトドアでも大活躍。道具や食料を水から守り、コンパクトにまとめてくれます。



- ウォーターバッグとしてもご利用いただけます。バッグに氷を入れ、真空パックします。バッグの中の氷が溶けたら、角を切ってストローを刺して飲んだり、コップに注いで飲みます。



- セーリングやクルージングなどでは、食料や電池、現金、身分証明書や着替えなどを真空パックしておけば、濡れて困ることもありません！ただし、バッグを開けるためのハサミを持っていくのを忘れずに！



- いざという時のために、電池や懐中電灯、マッチ、ろうそくなどの非常用品や、食料やその他必要な物の保存にも役立ちます。



こんなときには

フードセーバー® 使用時のトラブル対処方法について説明します。

現象	対処方法
密封ランプ（白）が点滅している	・本製品が過熱しています。続けて吸引・密閉する際は、必ず20秒以上間隔をあけてください。連続使用が行われると、保護センサーが動き、操作を停止し、白いランプが点滅します。冷却するまで本製品を20分間休ませてください。 ・密封と密封の間は必ず20秒以上間隔を開けてください ・ロックレバーが『』の位置で保管されていた。→パッキンが濡れてしまった可能性があります。ロックを外して、パッキンが元に戻るまで10～20分ほど待ってください。 ・吸引ポンプが120秒以上運転していた。連続して使用すると、自動的に本製品の電源が切れ、白いランプが点滅します。次項の「吸引ポンプは作動しているが、バッグから空気が抜けない」もご確認ください。
吸引ポンプは作動しているが、バッグから空気が抜けない	・バッグをバックロールから作成した場合、片側が閉じていることを確認してください。詳しくは「P.7 バックロールからバッグを作る（袋状にする）」をご確認ください。 ・バッグの位置を調節し、再度試してください。バッグの先端が吸引溝に入っていることを確認してください。 ・バッグにシワがよっていないか確認してください。バッグにシワがよるのを防ぐには、バッグを軽く引っ張りながら吸引溝に差し込んでください。 ・本体のフタを開け、パッキンがしっかり設置されているのを確認し、異物、汚れなどが上下のパッキンに付着していないことを確認してください。詳しくは「P.12 お手入れ方法」をご確認ください。 ・ロックレバーが『』の位置になっていた。→パッキンが濡れてしまった可能性があります。ロックを外して、パッキンが元に戻るまで10～20分ほど待ってください。 ・ハンディーシーラーがホース差込口に差し込まれていないかご確認ください。 ・フタがしっかりと閉まり、ロックレバーがフタを押さえている事を確認してください。ロックレバーがフタに引っかかっていないと、パッキンの間に空気の漏れが生じます。



こんなときには

フードセーバー® 使用時のトラブル対処方法について説明します。

現象	対処方法
パッキンがゆるい、もしくは破損している	・パッキンを取外し、きれいに洗い、吸引溝に戻してください。詳しくは「P.12 お手入れ方法」をご確認ください。 ・部品の購入は、フードセーバー カスタマーサービスセンター 0120-36-2040 から部品をご購入ください。
バッグが密封しない	・液体が多すぎます。吸引する前に、冷凍してから再度、吸引・密封してください。 ・パッキンに食材などが付着していないか確認してください。食材などが付着している場合、パッキンを取り外し、きれいに洗浄し、吸引溝に戻してください。詳しくは「P.12 お手入れ方法」をご確認ください。 ・バッグにシワが寄っています。バッグにシワがよるのを防ぐには、バッグを軽く引っ張りながら吸引溝に差し込んでください。
コントロールパネルのライトが点灯しない	・電源コードをコンセントに差し込んでいますか？ ・フタ がしっかり閉まっていること、ロックレバーが『』の位置になっていることを確認してください。
ロックレバーを  の位置に合わせ、ボタンを押しても何も起きない	・電源コードをコンセントに差し込んでいますか？ ・ロックレバーを外し、フタがしっかり閉まっていることを確認してから、再度『』の位置に合わせてください。
バッグを本体に差しこめない	・バッグがドリフトレーの中央まで届いていますか？必ず10cmほど余裕をもってバッグを切ってください。 ・バッグを軽く引っ張りながら、バッグの端を吸引溝に差し込んでください。



こんなときには

フードセーバー® 使用時のトラブル対処方法について説明します。

現象	対処方法
空気を一度吸引したが、 またバッグに空気が 入ってしまった	・再度、吸引・密封を行ってください。バッグにシワが寄っていると、空気が侵入する可能性があります。バッグにシワがよるのを防ぐには、バッグを軽く引っ張りながら吸引溝に差し込んでください。 ・食材からの水分などが接着部分に付着し、密着を妨げています。ハサミなどでバッグを開け、密着する内側の部位の汚れや水分をふき取り、再度、吸引・密封します。 ・食材が発酵もしくは天然ガスを発生しています。このような場合は、食材が腐食し始めた可能性があるので処分してください。
バッグが溶けた	・密封用ヒーターの温度が上がりすぎた可能性があります。必ず20秒以上間隔をおいてから次の密封作業を行ってください。 ・必ずFoodSaver® ブランドのバッグをご使用ください。 FoodSaver® のバックロールやバッグはFoodSaver® 本体と一緒に使用するために特別に設計されています。
真空フレッシュボックス が吸引・密封されない	・ふたが正しく設置されているか確認してください。 ・ハンディーシーラーのホース側が、カチッと鳴るまでしっかりと本体へ差し込まれていることを確認してください。 ・ハンディーシーラーのだ円形の側を容器にしっかり差し込みます。 ・ロックレバーが『』になっていることを確認してください。 ・『吸引』ボタンを押してください。
その他	・「フードセーバーカスタマーサービスセンター」としてください。お問い合わせください： 0120-36-2040 ・その他ご使用方法のヒントやよくある質問は www.foodsaverjapan.com をご覧ください。